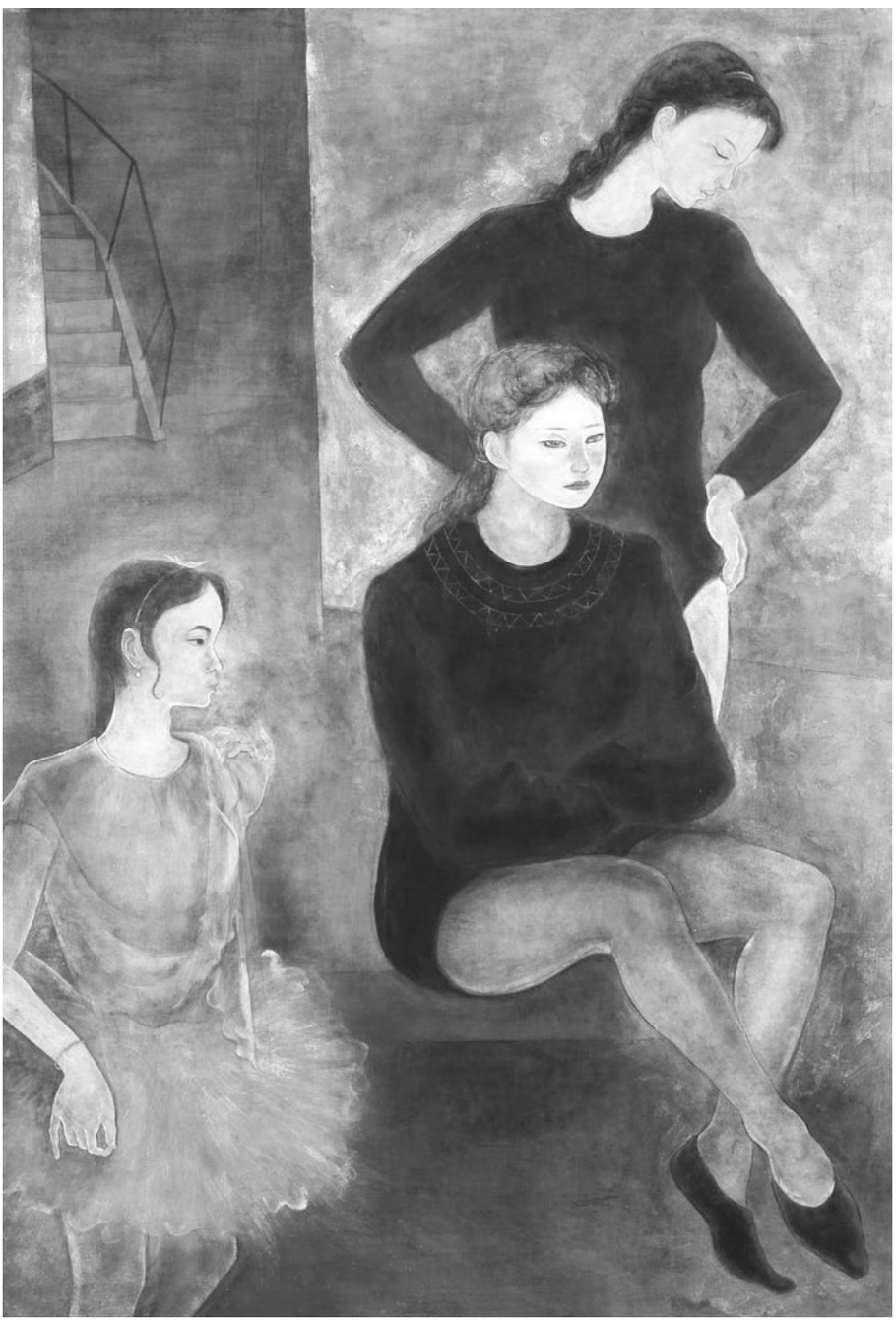
僕は
子どもの頃、
サーカスの
女の子に
憧れて
たんですよね



「踊子」1950(昭和25)年

※石本正記念展示室「2019年度 石本正作品選4」より

アフロディア

石正美術館 ミュージアムニュース
SEKISHO ART MUSEUM
MUSEUM NEWS
No. 142
Winter 2020

◆石本正記念展示室◆ 2019年度「石本正作品選4」より

「石本正作品選」では、青年時代から晩年に至るまでの画業の全貌を、展示作品を年四回に分けて入れ替えながら紹介します。収蔵作品の中から選び抜かれた名作の数々を、ぜひ会場でご覧下さい。

石本正絵画教室でのスケッチ

今回の作品選では、《石本正絵画教室》で石本先生が描かれたスケッチを十点展示するコーナーを設けています。展示室の二つの壁面をつかってこれらをまとめて展示するのは久しぶりかもしれません。室谷の棚田、都茂屋のヤブツバキ、海老谷桜、下今明の夫婦モミノキ、北浜海岸…これまでに絵画教室に参加されたことのある方にとっては、先生が描かれる姿も懐かしく思い出されるようなスケッチが沢山あるのではないでしょうか。

二〇〇一年に石正美術館ができて以降、石本先生は「絵は心で描くもの」「感動する心だけが本物の芸術を生み出すことができる」という思いをふるさとの多くの人達に伝えるため、自らが講師をつとめる《石本正絵画教室》を定期的に開催していました。

絵を描く楽しさを感じてほしいという思いから、いわゆる「絵の描き方」は教えないというのがこの教室の特徴でした。講師も参加者も関係なく、それぞれが夢中になって描く。絵を描くよろこびを分かち合う。そんな絵画教室でした。

「がんばったらあかん」「気楽に描けばええんや」という石本の口ぐせを大切に、参加者はのびのびと自分だけの感動を描くことができました。

講評会では「どの作品もすばらしい」と、それぞれの感動が描かれていることが大切だと説き続けました。

当時の様子を知る方々は「先生が一番楽しそうに描いていて、そんな先生と一緒に描くひとときが本当に楽しかった」と、今でも笑顔で話されます。京都からの移動に伴う身体的負担や、自身の制作に専念したいとの意向から、石本の参加は二〇〇九年の第三十回が最後となりました。しかし先生が他界した今も、「絵を描くよろこび」を伝える大切な場として継続されています。

笑顔あふれる講評会の様子
第 15 回石本正絵画教室「都茂屋のヤブツバキ」（2005 年）

描きたいものが次から次に浮かんで…

今回の展示作品の中からもう一点、〈コンドル　思い遥かに〉をご紹介します。

九十歳を超え、足腰が弱ってきていた石本先生は、ほとんどの時間をアトリエの中で過ごすようになっていました。

そんな中、絵を描く体力を保つために日課としていた散歩の途中で見かけた樹や道端に咲く花、たまに植物園や動物園へ出かけた際に興味を惹かれたものなど、これまで描かれた事のないモチーフも次々と作品になりました。

「描きたいものが次から次へと湧き出てしょうがない」と繰り返し口にし、大好きなクラシック音楽を聴きながら、同時に何枚ものパネルを並べて絵に向かいました。自身の空想と戯れるような瑞々しくのびやかな表現は、九十代とは思えないほど自由な心で描かれていました。

〈コンドル　思い遥かに〉が描かれた頃の夏、暑い毎日にもかかわらず、彼はコンドルをスケッチしに動物園に何度も出かけていました。三時の餌の時間にだけ、コンドルが地面に降りて歩いたりするのだそうで、その時のコンドルの足の形が面白くて、それを見たくて通っていたのでした。

それからコンドルの連作が続きました。このシリーズは、「出合い」から始まり、愛を育んでいく二羽のコンドルの物語が描かれています。そのシリーズのうちの一点でもある本作に描かれた二羽は、ともに羽根を広げ愛をささやき合っているかのようにも見えます。

「コンドル　思い遥かに」2011（平成 23）年

◆企画展示室◆「石本正 心の眼 3 ～私を感動させた日本画～」

石本が素晴らしい絵だと心から感動して選び、石正美術館に収蔵された約百五十点の現代日本画家の作品の中から、厳選した十五点をご紹介しています。

二〇〇一年に、自らの作品を収蔵・展示する石正美術館ができたことをきっかけに、石本正は《文化》は流行ではなく心や気持ちが一番大事だということを、ふるさとである島根県浜田市から発信して欲しいと願い続けていました。そして、百五十点余りの他作家の作品を自らの心の眼で選び、それらは二〇一〇年に増設された新館に収蔵されました。以降当館は、石本の作品だけではなく、彼にゆかりの深い現代日本画家の作品も併せて鑑賞する事ができるようになりました。石本は、このことについて次のような言葉を残しています。

「絵を見るときは、名前や肩書きで見ないで欲しい。先入観を持たず、作品に素直な心で向き合ってほしい」石本正

どの作品も、感動にあふれた素晴らしい絵画を多くの人に見てもらいたいと、石本が心から願っていたものばかりです。ぜひ会場で、それぞれの作品をゆっくりとご覧頂きたいと願っています。

心温まる絵

岡崎國夫は二〇〇六年に亡くなるまで、石本と同じ新制作協会と創画会に所属し、作品を発表し続けた日本画家です。愛情深く動物を描いた作品が多く、石本も彼の作品を高く評価していました。そして、二〇〇三（平成十五）年に浜田市世界こども美術館で開催された、石本自身が感動した作品を選んで展示する企画展「日本画の未来（あした）」では六点の作品が選ばれ、のちに当館に収蔵されることとなりました。

今回展示している〈とらのこ〉もその時に選ばれた作品の一つです。むしろの上で丸くなり、気持ちよさそうに眠るトラの子供。その安らいだ表情と柔らかな毛並みの表現だけでなく、トラの子の成長を予感させるずっしりと大きな前足にも、細部まで心を配る作家の観察力が光ります。

絵の前に立つと、心がほっと温かくなるような、そんな作品です。

岡崎國夫「とらのこ」1985（昭和 60）年

集合体としての面白さ

次にご紹介するのは、伊藤はるみの作品〈藤の頃〉です。

伊藤は石本の教え子であり、現代日本画壇で活躍する作家の一人です。花をテーマにした作品が多く、若い頃から時間があれば花を描きに写生に出かけていたといいます。これまで様々な花を描いてきましたが、それぞれの花の違いをこまやかな神経で描き分け、その性格まで表現しようとしている点を石本も高く評価していました。

伊藤はるみ「藤の頃」1987（昭和 62）年

藤を描いたこちらの作品について作家は次のように語っています。

「写生が好きで、特に牡丹は毎年欠かさず数日写生に通います。藤の花に関しては、写生が苦手で、写生どおりに制作すると上手くいかず、イメージで創るようになりました。集合体としての面白さを、藤の制作を通して知りました」。

重なり合うように咲く藤の花。その一房一房が丁寧に描かれ、柔らかくぼかすような彩色が、藤のまわりに漂うやさしい空気感を感じさせてくれるかのようです。

このほかにも、石本が心から感動し、多くの方々に見てほしいと願いあつめた作品の数々を観ることができます。ぜひ展示室でごゆっくりとご覧ください。

◆「2019年度　石本正作品選4」（石本正記念展示室）
◆「石本正 心の眼3～私を感動させた日本画」（企画展示室）【出品作家】伊藤はるみ・岩本和夫・上野富二郎・岡崎國夫・奥村美佳・落合浩子・角本長子・岸本礎・岸本裕子・多留裕二・中原麻貴・西久松吉雄・牧野良美・渡辺武蔵（五十音順）
【会期】三月十五日（日）まで

石本正「のれん」1970（昭和 45）年　　個人蔵

二〇二〇年、石正美術館の所蔵作品が旅に出る。

これまで石正美術館の収蔵作品のほとんどは、石本正の希望により門外不出としてきました。2020 年に生誕 100 年を迎えるにあたり、作品をもっと多くの方に見てほしいとのご遺族の願いから、全国を巡回する大回顧展を開催できることになりました。

本展では、当館の収蔵作品だけでなく、これまで所在が分からなくなっていた代表作「のれん」や、川端康成に「いよいよ石本観音ができますね」と評された１対（つい）の「舞妓裸像」などの公開も含め、多くの代表作とともに石本正の画業の全貌を紹介します。どうぞご期待ください。

◆会期・会場◆

2020年	会期	7月3日（金）～ 8月23日（日）
	会場	島根県立美術館（松江市）
	会期	9月1日（火）～ 10月11日（日）予定
	会場	一宮市三岸節子記念美術館（愛知県）
	会期	10月24日（土）～ 12月13日（日）予定
	会場	浜松市秋野不矩美術館（静岡県）
2021年	会期	3月23日（火）～ 6月20日（日）
	会場	浜田市立石正美術館

※その他会場も予定

◆主　　催◆ 開催美術館、朝日新聞社（静岡会場以外）ほか
◆特別協力◆ 浜田市立石正美術館
◆協　　賛◆ NISSHA 株式会社（全会場共通）

学芸員の部屋

イタリアの旅2 ①
―レオナルド・ダ・ヴィンチの天井画（前編）―

この年末年始、再び石本先生の足跡を追ってイタリアへ行ってきました。この度は、もう一人の学芸員の上田さんも一緒です。今回のイタリア滞在日数も、二年前と同じく五日間という短い期間での強行軍でしたが、限られた時間の中で見たことや感じたことを、またこの場をお借りして綴っていきたいと思いますので、どうぞお付き合いください。

二〇一九年はレオナルド・ダ・ヴィンチの没後五〇〇年にあたる年だったそうで、これを記念して世界各地でさまざまな展覧会やイベントが開催されました。特にイタリアは、ダ・ヴィンチの出生国ということもあって色々な催しで盛り上がっている様子でした。

スフォルツェスコ城（ミラノ）

そんな中、私達にとって重要な作品の特別公開が期間限定で行われていました。それは…石正美術館の塔天井画の構想の元となった、レナルド・ダ・ヴィンチが描いたとされる天井画です。

この天井画は、ミラノの中でも多くの観光客が訪れるスフォルツェスコ（スフォルツァ）城の〈アッセの間〉という部屋の天井を飾るフレスコ画で、ずっと修復中のため普段は閉じられており、特別公開の機会にしか見る事ができません。

でも実は今回、この特別公開があったからイタリアへ行くことを決めた訳ではなく、「今年またイタリアへ行こう！」と思って以降、行き先をどこにしようかと調べている時にこの事を知りました。この二〇一九年度は、当館の夏の展覧会で偶然、天井画について改めて紹介する特集もしていたこともあって、この情報を目にしたときは「もうここに行くしかない！」と思いました。

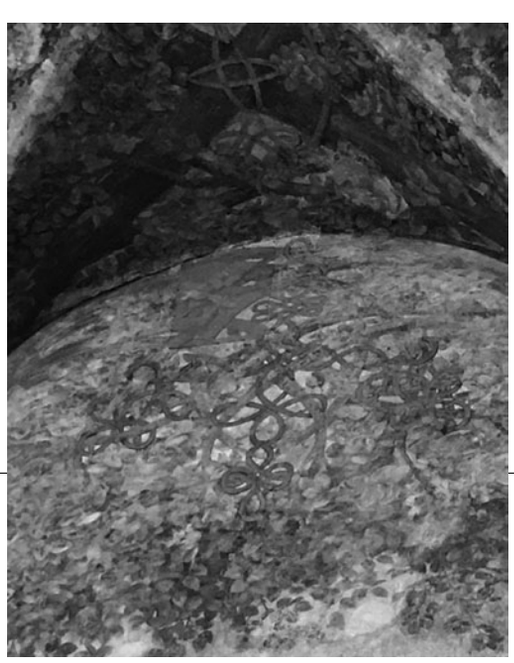
アッセの間の天井画は、一四九八年に当時ミラノを統治していたルドヴィーゴ・スフォルツァによりレオナルド・ダ・ヴィンチに制作が依頼されました。一ヶ月で完成させるようにという注文だったそうですが、完成前にフランス軍の侵攻に遭い途中で終わってしまったようです。その後、経緯はまだ不明だそうですが白く漆喰で塗りつぶされたため壁画の存在は忘れられていました。それが十九世紀になって漆喰の下から発見され、調査の結果レオナルドの手によるものと判明し、この時に一度修復されました。ただし当時の過度な修復によってレオナルドのオリジナルとは言えないようなものになっていたようで、二十世紀に入ってから少しずつオリジナルに近い状態へと元に戻しているところのようです。

〈アッセの間〉の天井画

今回、運よく特別公開の機会に見学することができましたが、この一月十三日以降は再び修復のため非公開となります。

描かれているのは桑の木で、絡み合う枝がところどころ金の紐で結ばれている様子が装飾的に表現されています。元々剥落が激しかったようではっきりと見えるわけではないのですが、葉の隙間から木漏れ日が差しているような様子は分かり、この部屋にいるとまるで桑の木の森の中に立っているような気持ちになる。そんな雰囲気でした。（後編に続く）

（主任学芸員　横山由美子）


◀絡み合う桑の枝が、金の紐で結ばれている部分。

創作教室

「古布でかんたんバッグ作り」

講師：岩本直子さん

2.15 土　13 時～ 15 時

参加費 1,800 円　要申込み　【定員】20 名

【持ってくるもの】
裁縫道具（針・糸など）、洗濯ばさみ（8 個）

袋帯などの上質な古布を使ってバッグを作りませんか？
クリーニングもできる裁縫用ボンドを併用するので、初心者の方でも簡単に作れます！
ご予約時に「ポシェット」「手さげ」からご希望の方をお選びください。

ギャラリー展示

「三隅中学校美術部展」

2.1 土 →**2.14** 金

9 時～ 17 時
（最終日 16 時まで）
月曜休館

入場無料

「静かな夜道」下田芹香（2 年）

浜田市立三隅中学校の美術部の皆さんによる作品展です。若々しい感性で描かれたデザイン画やイラスト等の作品の数々をぜひご覧ください。

ギャラリー展示

「石見の春展」

3.24 火 →**4.19** 日　入場無料

9 時～ 17 時　月曜休館

石見の春をテーマに、皆様から募集した水墨画や絵画、写真など幅広い作品を展示します。

「海老谷桜」
倉井久夫
（昨年の出品作）

創作教室

おとなのアートサロン
「にんじんのネガポジ画」

講師：島根臨床美術の会

3.1 日　13 時～ 15 時

参加費 2,000 円　要申込み　【定員】20 名

背景を塗るとにんじんが浮かび上がる！発想の転換から楽しさが生まれる不思議な体験をお楽しみください！
だれでも簡単に五感で作品づくりを楽しめる「臨床美術」の手法をいかしたワークショップです。

コンサート

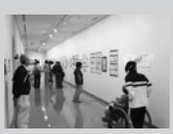
コトノブラザーズ コンサート 2

3.27 金　入場無料

【時間】
18 時 30 分 ～ 20時
（開場 18 時）

浜田市出身の琴野家三兄弟、一心（23）・海流（21）・研志郎（17）によるコンサート。今回は美術館中庭のしだれ桜ライトアップにあわせて夜に開催！
クラシックからポップスまで、一度は耳にしたことのあるあの曲を、ピアノソロやアンサンブルでお届けします。

SCHEDULE 石正美術館スケジュール

石本正記念展示室	企画展示室	ギャラリー	ミュージアムパフォーマンス・創作教室
2019年度 **石本正作品選4** 1.2 木 ↓ 3.15 日	**石本正 心の眼3** ～私を感動させた日本画～ 1.2 木 ↓ 3.15 日	1.2 木 ↓ 1.17 金 **「干支展 2020 - 子 -」** 【入場無料】	2.15 土 13時～15時 **「古布でかんたんバッグ作り」** 講師：岩本直子さん 参加費：1,800円 定員：20名 持ち物：裁縫道具（針・糸など）、洗濯ばさみ（8個） 参加費 要申込み
		2.1 土 ↓ 2.14 金 **「三隅中学校美術部展」** 【入場無料】	3.1 日 13時～15時 おとなのアートサロン **「にんじんのネガポジ画」** 講師：島根臨床美術の会 参加費：2,000円 定員：20名 参加費 要申込み
		ギャラリー利用者＆ミュージアムパフォーマー大募集中！ 詳しくは石正美術館までお問い合わせ下さい！ TEL 0855-32-4388 **【ギャラリー利用者募集】** 当館では作品展示の会場としてギャラリーの貸出をしています。絵画・写真・書道・立体作品・着物など、様々な作品の展示が可能です。 **利用料：1日2,200円（税込み）** ※利用料金は電気代・什器利用代など含む ※当館の展示スケジュールにより日数などの変更をお願いする場合があります  **【ミュージアムパフォーマー募集】** 当館では「美術館が絵の好きな方ばかりでなく、いろんな人で賑わえばいいな」と考え、開館以来、毎週末にコンサートや創作活動を行ってきました。 当館創作室や中庭を発表の場として使ってみませんか？ 創作教室の講師をしてくださる方も大歓迎です！ 	
3.16 月 → 3.23 月	展示替休館	CLOSED	
石本正「夢をえがいて」 3.24 火 ↓ 6.21 日		3.24 火 ↓ 4.19 日 **「石見の春展」** 【入場無料】	3.27 金 18時30分～20時（開場18時） **コトノブラザーズコンサート2** 出演：琴野三兄弟 入場無料
		4.25 土 ↓ 5.10 日 **「宮山加代子木版画展」** 【入場無料】	4.11 土 ①13時～ ②13時40分～ ③14時20分～ ④15時～ （各回40分） **「お花のかざぐるま」** 講師：モードエモード静 参加費：400円 定員：各回7名（予約優先） ※制作時ハサミ、ハンマー、絵の具を使用 参加費
			4.26 土 **「宮山加代子木版画実演」** 講師：宮山加代子さん

活動報告1

サポーター研修旅行
「岡山・心を満たす美術の旅」

11月4日（月・振）に恒例の「サポーター研修旅行」を開催しました。サポーターを中心に美術講座受講生やご友人など、総勢29名で岡山県の美術館を巡りました。

はじめに、笠岡市立竹喬美術館で「生誕130年記念 小野竹喬のすべて 第二章：至純の時代1939－1979」を鑑賞しました。過去二回ほど研修旅行で来館していますが、小野竹喬の生涯を追う展示は初めてでした。竹喬美術館の学芸員さんの作品解説を聞きながら鑑賞し、解説の後も参加者の皆さんは作品に見入るようにじっくりとご覧になっておられました。

次に、岡山県立美術館では「熊谷守一 いのちを見つめて」を鑑賞。まずは担当学芸員さんより熊谷守一の生涯や制作技法についてお話をお聞きしました。この日は展覧会最終日ということもあり、展示室には多くのお客様がおられました。展示作品に惹きつけられるように足を止め、その前でお話をされている姿はとても印象的に残りました。

この度の研修旅行では見学地をしぼり、鑑賞時間を長く取ることで、参加者の皆さんがゆっくりとした時間を過ごせるように工夫しました。今後も参加していただける方々が楽しく過ごせるような研修旅行を計画してまいります。

次回は、今年7月に島根県立美術館で開催される「生誕一〇〇年回顧展 石本正」展を見学予定です。詳細が決まりましたら、またご案内いたしますのでお楽しみに！

活動報告2

「石正美術館まつり」
「光の回廊」

11月9日（土）・10日（日）に「石正美術館まつり」を開催し、16名のサポーターの方々がアンケートの配布・回収や展示室への誘導等、本当に大活躍していただきました。

また、12月6日（金）には「光の回廊」のイルミネーションの設置を予定していましたが、あいにくの雨模様。そのため回廊内に2016年に廃ロウソクで作成したキャンドルホルダーを使い、光のモニュメントの設置などを行いました。この日参加してくださったサポーターさんなど、5名の方にレイアウト含め全てお任せしましたが、試行錯誤されながらも無事に完成！夜間開館の日にはロウソクをともし、多くの来館者の方に喜んでいただきました。

ご協力いただいたサポーターの皆さま、本当にありがとうございました。

サポーター募集

「できること」を「できるときに」でけっこうです。

広報　美化活動
展示替え　創作活動
研修旅行

活動を「楽しんで」いただける方、お待ちしています。

バックヤード清掃

封入作業

SEKISHO ART MUSEUM

利用ごあんない

開館時間　9：00～17：00

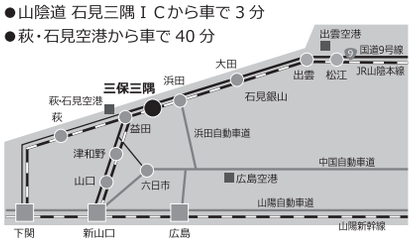
休 館 日　月曜日
〔月曜日が祝日の場合開館・翌平日休館〕
展示替え期間
〔令和2年3月16日(月)～3月23日(月)〕

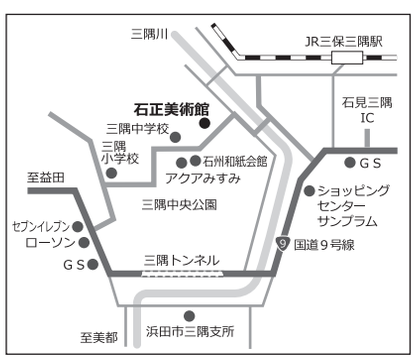
観 覧 料
一般　600円（団体500円）
高校・大学生　300円（240円）
小・中学生　200円（160円）

※20名以上は団体料金。
※身体障がい者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方は半額。介助者は無料です。
※「しまね家庭の日」毎月第3日曜日は「しまね家庭の日」(家族連れの高校生・中学生・小学生は無料)。

石正美術館へのアクセス

- 最寄駅 三保三隅駅から車で5分
- ＪＲ山陰本線 浜田駅から三保三隅駅まで列車で20分
- 広島駅から浜田駅まで高速バスで2時間
- 浜田自動車道 浜田ＩＣから車で20分
- 山陰道 石見三隅ＩＣから車で3分
- 萩・石見空港から車で40分





石正美術館 ミュージアムニュース
アフロディア
No.142
Winter 2020
令和2（2020）年1月23日発行
編集・発行 浜田市立石正美術館
〒699-3225 島根県浜田市三隅町古市場589
TEL 0855-32-4388　FAX 0855-32-4389
Eメール　sekisho@mx.miracle.ne.jp
http://www.sekisho-art-museum.jp/
石正美術館　検索
「浜田市立石正美術館」で検索